



大Siebold没後150年「第6回築地あじさい祭り」

主催：NPO法人築地居留地研究会 協賛：日本しいぼると協会 後援：東京都中央区
 シーボルトがオランダに持ち帰った【あじさい】につけた学名は愛する妻の名【オタクサ】
 今もライデン大学植物園には紫陽花が咲き、築地のシーボルト像の隣にも同じ紫陽花が咲き誇ります。
 本年はフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト没後150年であり国内各地でも様々な展覧会、
 式典が開かれておりますが、ここ築地居留地研究会ではここで過ごしたシーボルト姉弟（イネ、
 アレキサンデル、ハインリッヒ）のことを姉弟の手紙のやりとりなども交えながら日本シーボルト
 協会幹事、シーボルト子孫の関口忠志氏をお呼びしてお話しして頂きます。

平成 28 年 5 月 21 日（土）14:00～16:00 於：聖路加国際大学4階402号室

講師：関口忠志氏（日本シーボルト協会幹事・シーボルト子孫）

テーマ：「我が先祖、Siebold兄弟と異母姉イネと築地居留地」

あじさい祭り参加費無料 講演会終了後、築地居留地エクスカージョンを行います。
 エクスカージョン終了後、講師を囲んでの茶話会を行います。茶話会参加費は ¥500



《講演要旨》

医師であり、植物学、地理、博物学、民俗学と様々な興味を持ち研究、また外交官としての活躍、様々な顔を持つフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト。彼についての研究は1代に留まらず受け継いだ子供たちにまで及びます。

イネは日本の西洋産科女医の先駆けの1人であり、幕末～明治にかけて知名度の高い女性であります。しかし、その実像は不明な点が多く、実証的研究が未だになされていません。ドラマや小説によって広まった虚像が未だに世間に信じられています。

今回は関口家所蔵のイネとハインリッヒのやり取りした手紙など貴重な資料を交えながらシーボルト兄弟の日本での活躍と異母姉イネへの協力をイネの誕生、幼少期、修行期と時代を辿り、父シーボルトの支援、弟嫁岩本はなの親交なども交えながらお話し致します。

※問い合わせ先：ミズノプリンティングミュージアム内（TEL 03-3551-7595）担当：村山